【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成28年5月19日(2016.5.19)

【公表番号】特表2015-516538(P2015-516538A)
【公表日】平成27年6月11日(2015.6.11)
【年通号数】公開・登録公報2015-038
【出願番号】特願2015-511482(P2015-511482)
【国際特許分類】
Ｆ０１Ｄ　5/18　(2006.01)
Ｆ０１Ｄ　9/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｆ０１Ｄ　5/18
Ｆ０１Ｄ　9/02　１０２

【誤訳訂正書】
【提出日】平成28年3月25日(2016.3.25)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
翼基部（３４）から翼先端（３６）まで翼長（Ｓ）に沿って外向きに延び、幅方向に離間した正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）であって、互いに反対の前縁（ＬＥ）と後縁（ＴＥ）の間で翼弦方向（Ｃ）に延びる、正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）と、
前記正圧側壁（４２）に収容され、翼長方向に離間した後縁冷却孔（３０）の翼長方向の列（３８）であって、前記冷却孔（３０）の全てまたは複数が、実質的に前記後縁（ＴＥ）まで翼弦方向に延びるとともに翼長方向に延びる単一の後縁冷却スロット（６６）で終端し、前記冷却孔（３０）のそれぞれが、下流方向に連続する冷却流との関係で、湾曲入口（７０）、一定領域一定幅の流れ断面（７４）を有する絞り部（１００）、および、前記後縁冷却スロット（６６）に通じる翼長方向漸拡部（１０２）を含む、後縁冷却孔（３０）の翼長方向の列（３８）と、
前記冷却孔（３０）の間で翼弦方向に延び、前記翼長（Ｓ）に沿って前記冷却孔を半径方向に分離する軸方向隔壁（６８）と、
湾曲したボートテール（８８）を含む、前記隔壁（６８）の尾部端（８６）と、
を備え、
前記ボートテール（８８）のそれぞれが、前記正圧側壁（４２）と前記負圧側壁（４４）の間で翼長方向に位置する先端（９２）を有するボートテール後縁（９０）を含み、前記ボートテール後縁（９０）が、前記先端（９２）から尾部方向または下流方向に湾曲し、前記先端（９２）から前記正圧側壁（４２）まで翼長方向または半径方向外向きに湾曲し、前記先端（９２）から前記負圧側壁（４４）まで内向きに湾曲する、前記ボートテール（８８）をさらに備える、ガスタービンエンジンのタービン翼（１２）。
【請求項２】
前記冷却孔（３０）を通じて孔幅（Ｗ）よりも実質的に大きい翼長方向の高さ（Ｈ）をさらに有する、請求項１に記載の翼（１２）。
【請求項３】
前記正圧側壁（４２）および前記負圧側壁（４４）のそれぞれの正圧側壁面（３９）お

よび負圧側壁面（４０）を前記孔（３０）内にさらに備え、前記正圧側壁面（３９）が、絞り部（１００）および漸拡部（１０２）の全体を通じて平面状である、請求項１に記載の翼（１２）。

【請求項４】

前記孔（３０）の前記絞り部（１００）および前記漸拡部（１０２）を通じて一定の幅（Ｗ）をさらに有する、請求項３に記載の翼（１２）。

【請求項５】

前記冷却孔（３０）の前記漸拡部（１０２）から実質的に前記翼後縁（ＴＥ）まで翼弦方向または下流方向に延びる前記スロット（６６）のデッキ（１３０）であって、前記後縁冷却孔（３０）のうちの最下部孔（１３２）から最上部孔（１３４）まで翼長方向または半径方向外向きに延びるデッキ（１３０）と、

翼長方向で前記デッキ（１３０）の境界を形成し、前記デッキ（１３０）から前記正圧側壁（４２）の外面（４３）まで延びる、上部デッキ側壁（１３６）および下部デッキ側壁（１３８）と、

前記上部デッキ側壁（１３６）および前記下部デッキ側壁（１３８）と前記デッキ（１３０）との間におけるスロットコーナ（６４）の丸み部（６２）と、

をさらに備える、請求項１に記載の翼（１２）。

【請求項６】

翼基部（３４）から翼先端（３６）まで翼長（Ｓ）に沿って外向きに延び、幅方向に離間した正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）であって、互いに反対の前縁（ＬＥ）と後縁（ＴＥ）の間で翼弦方向（Ｃ）に延びる、正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）と、

前記正圧側壁（４２）に収容され、翼長方向に離間した後縁冷却孔（３０）の翼長方向の列（３８）であって、前記冷却孔（３０）の全てまたは複数が、実質的に前記後縁（ＴＥ）まで翼弦方向に延びるとともに翼長方向に延びる単一の後縁冷却スロット（６６）で終端し、前記冷却孔（３０）のそれぞれが、下流方向に連続する冷却流との関係で、湾曲入口（７０）、一定領域一定幅の流れ断面（７４）を有する絞り部（１００）、および、前記後縁冷却スロット（６６）に通じる翼長方向漸拡部（１０２）を含む、後縁冷却孔（３０）の翼長方向の列（３８）と、

前記冷却孔（３０）の間で翼弦方向に延び、前記翼長（Ｓ）に沿って前記冷却孔を半径方向に分離する軸方向隔壁（６８）と、

湾曲したボートテール（８８）を含む、前記隔壁（６８）の尾部端（８６）と、

前記冷却孔（３０）の前記漸拡部（１０２）から実質的に前記翼後縁（ＴＥ）まで翼弦方向または下流方向に延びる前記スロット（６６）のデッキ（１３０）であって、前記後縁冷却孔（３０）のうちの最下部孔（１３２）から最上部孔（１３４）まで翼長方向または半径方向外向きに延びるデッキ（１３０）と、

翼長方向で前記デッキ（１３０）の境界を形成し、前記デッキ（１３０）から前記正圧側壁（４２）の外面（４３）まで延びる、上部デッキ側壁（１３６）および下部デッキ側壁（１３８）と、

前記上部デッキ側壁（１３６）および前記下部デッキ側壁（１３８）と前記デッキ（１３０）との間におけるスロットコーナ（６４）の丸み部（６２）と、

を備え、

前記丸み部（６２）が丸み半径（ＲＦ）を有し、前記丸み半径（ＲＦ）が、前記漸拡部（１０２）の前記流れ断面（７４）の底コーナ半径（ＲＴ）と実質的に同じサイズを前記底コーナ半径（ＲＴ）に隣接して有する、ガスタービンエンジンのタービン翼（１２）。

【請求項７】

翼基部（３４）から翼先端（３６）まで翼長（Ｓ）に沿って外向きに延び、幅方向に離間した正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）であって、互いに反対の前縁（ＬＥ）と後縁（ＴＥ）の間で翼弦方向（Ｃ）に延びる、正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）と、

前記正圧側壁（４２）に収容され、翼長方向に離間した後縁冷却孔（３０）の翼長方向の列（３８）であって、前記冷却孔（３０）の全てまたは複数が、実質的に前記後縁（ＴＥ）まで翼弦方向に延びるとともに翼長方向に延びる単一の後縁冷却スロット（６６）で終端し、前記冷却孔（３０）のそれぞれが、下流方向に連続する冷却流との関係で、湾曲入口（７０）、一定領域一定幅の流れ断面（７４）を有する絞り部（１００）、および、前記後縁冷却スロット（６６）に通じる翼長方向漸拡部（１０２）を含む、後縁冷却孔（３０）の翼長方向の列（３８）と、

前記冷却孔（３０）の間で翼弦方向に延び、前記翼長（Ｓ）に沿って前記冷却孔を半径方向に分離する軸方向隔壁（６８）と、

湾曲したボートテール（８８）を含む、前記隔壁（６８）の尾部端（８６）と、

前記孔（３０）の前記絞り部（１００）および前記漸拡部（１０２）を通じて一定の幅（Ｗ）と、

トラック状の流れ断面（７４）を有する前記漸拡部（１０２）であって、前記トラック状の流れ断面（７４）が、翼長方向に離間し半径（Ｒ）を有する丸みを帯びたまたは半円状の内側端部（８２）と外側端部（８４）の間に矩形部（７５）を含む、前記漸拡部（１０２）と、

前記冷却孔（３０）の前記漸拡部（１０２）から実質的に前記翼後縁（ＴＥ）まで翼弦方向または下流方向に延びる前記スロット（６６）のデッキ（１３０）であって、前記後縁冷却孔（３０）のうちの最下部孔（１３２）から最上部孔（１３４）まで翼長方向または半径方向外向きに延び、上部デッキ側壁（１３６）および下部デッキ側壁（１３８）が、翼長方向でデッキ（１３０）の境界を形成し、前記デッキ（１３０）から前記正圧側壁（４２）の外面（４３）まで延びる、デッキ（１３０）と、

前記上部デッキ側壁（１３６）および前記下部デッキ側壁（１３８）と前記デッキ（１３０）との間におけるスロットコーナ（６４）の丸み部（６２）であって、前記流れ断面（７４）の前記半径（Ｒ）と実質的に同じサイズの丸み半径（ＲＦ）を有する丸み部（６２）と、

を備える、ガスタービンエンジンのタービン翼（１２）。

【請求項８】

隣り合う冷却孔（３０）の翼長方向の対（９４）の間で前記隔壁（６８）の前記尾部端（８６）を通る丸みを帯びた断面（９６）を含む前記湾曲ボートテール（８８）をさらに備える、請求項１に記載の翼（１２）。

【請求項９】

翼長方向における孔の高さ（Ｈ）と幅（Ｗ）の孔高さ孔幅比（Ｈ／Ｗ）が約２：１から１０：１の範囲である、前記絞り部（１００）および前記漸拡部（１０２）をさらに備える、請求項８に記載の翼（１２）。

【請求項１０】

前記正圧側壁（４２）および前記負圧側壁（４４）のそれぞれの正圧側壁面（３９）および負圧側壁面（４０）を前記孔（３０）にさらに備え、前記正圧側壁面（３９）が前記絞り部（１００）および前記漸拡部（１０２）の全体を通じて平面状である、請求項８に記載の翼（１２）。

【請求項１１】

前記孔（３０）の前記絞り部（１００）および前記漸拡部（１０２）を通じて一定である幅（Ｗ）をさらに有する、請求項１０に記載の翼（１２）。

【請求項１２】

下流方向に先細る前記入口（７０）またはベルマウス状の前記入口（７０）をさらに備える、請求項１１に記載の翼（１２）。

【請求項１３】

翼基部（３４）から翼先端（３６）まで翼長（Ｓ）に沿って外向きに延び、幅方向に離間した正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）であって、互いに反対の前縁（ＬＥ）と後縁（ＴＥ）の間で翼弦方向（Ｃ）に延びる、正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）

と、
前記正圧側壁（４２）に収容され翼長方向に離間した後縁冷却孔（３０）の翼長方向の列（３８）であって、実質的に前記後縁（ＴＥ）まで翼弦方向に延びるとともに翼長方向に延びる単一の後縁冷却スロット（６６）で終端し、前記冷却孔（３０）のそれぞれが、下流方向に連続する冷却流との関係で、湾曲入口（７０）、絞り部（１００）、および、前記後縁冷却スロット（６６）に通じる翼長方向漸拡部（１０２）を含む、後縁冷却孔（３）の翼長方向の列（３８）と、
前記冷却孔（３０）の間で翼弦方向に延び、前記翼長（Ｓ）に沿って前記冷却孔を半径方向に分離する軸方向隔壁（６８）と、
湾曲したボートテール（８８）を含む、前記隔壁（６８）の尾部端（８６）と、
を備え、
前記ボートテール（８８）のそれぞれが、前記正圧側壁（４２）と前記負圧側壁（４４）の間に翼長方向に位置する先端（９２）を有するボートテール後縁（９０）を含み、前記ボートテール後縁（９０）が、前記先端（９２）から尾部方向または下流方向に湾曲し、前記先端（９２）から前記正圧側壁（４２）まで翼長方向または半径方向外向きに湾曲し、前記先端（９２）から前記負圧側壁（４４）まで内向きに湾曲する、前記ボートテール（８８）をさらに備える、
ガスタービンエンジンのタービン翼（１２）。
【請求項１４】
隣り合う冷却孔（３０）の翼長方向の対（９４）の間で前記隔壁（６８）の前記尾部端（８６）を通る丸みを帯びた断面（９６）を含む前記湾曲ボートテール（８８）をさらに備える、請求項１３に記載の翼（１２）。
【請求項１５】
前記冷却孔（３０）の前記漸拡部（１０２）から実質的に前記翼後縁（ＴＥ）まで翼弦方向または下流方向に延びる前記スロット（６６）のデッキ（１３０）であって、前記後縁冷却孔（３０）のうちの最下部孔（１３２）から最上部孔（１３４）まで翼長方向または半径方向外向きに延び、上部デッキ側壁（１３６）および下部デッキ側壁（１３８）が、翼長方向で前記デッキ（１３０）の境界を形成し、前記デッキ（１３０）から前記正圧側壁（４２）の外面（４３）まで延びる、デッキ（１３０）と、
前記上部デッキ側壁（１３６）および前記下部デッキ側壁（１３８）と前記デッキ（１３０）との間におけるスロットコーナ（６４）の丸み部（６２）と、
をさらに備える、請求項１４に記載の翼（１２）。
【請求項１６】
丸み半径（ＲＦ）を有する前記丸み部（６２）をさらに備え、前記丸み半径（ＲＦ）が、前記漸拡部（１０２）の前記流れ断面（７４）の底コーナ半径（ＲＴ）と同じサイズを前記底コーナ半径（ＲＴ）に隣接して有する、請求項１５に記載の翼（１２）。
【請求項１７】
トラック状の流れ断面（７４）を有する前記漸拡部（１０２）であって、前記トラック状の流れ断面（７４）が、翼長方向に離間し半径（Ｒ）を有する丸みを帯びたまたは半円状の内側端部（８２）と外側端部（８４）の間に矩形部（７５）を含む、前記漸拡部（１０２）と、
前記冷却孔（３０）の前記漸拡部（１０２）から実質的に前記翼後縁（ＴＥ）まで翼弦方向または下流方向に延びる前記スロット（６６）のデッキ（１３０）であって、前記後縁冷却孔（３０）のうちの最下部孔（１３２）から最上部孔（１３４）まで翼長方向または半径方向外向きに延び、上部デッキ側壁（１３６）および下部デッキ側壁（１３８）が、翼長方向で前記デッキ（１３０）の境界を形成し、前記デッキ（１３０）から前記正圧側壁（４２）の外面（４３）まで延びる、デッキ（１３０）と、
前記上部デッキ側壁（１３６）および前記下部デッキ側壁（１３８）と前記デッキ（１３０）との間におけるスロットコーナ（６４）の丸み部（６２）であって、前記流れ断面（７４）の前記半径（Ｒ）と実質的に同じサイズの丸み半径（ＲＦ）を有する丸み部（６

２）と、
をさらに備える、請求項１４に記載の翼（１２）。
【請求項１８】
翼長方向における前記孔の高さ（Ｈ）と幅（Ｗ）の孔高さ孔幅比（Ｈ／Ｗ）が約２：１から１０：１の範囲である、前記絞り部（１００）および前記漸拡部（１０２）をさらに備える、請求項１７に記載の翼（１２）。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１１
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１１】
ガスタービンエンジンのタービン翼（１２）は、翼基部（３４）から翼先端（３６）まで翼長（Ｓ）に沿って外向きに延び、幅方向に離間した正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）であって、互いに反対の前縁（ＬＥ）と後縁（ＴＥ）の間で翼弦方向（Ｃ）に延びる、正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）を含む。翼長方向に離間した後縁冷却孔（３０）の翼長方向の列（３８）は、正圧側壁（４２）と負圧側壁（４４）の間で翼（１２）に収容される。少なくとも複数の後縁冷却孔（３０）は、実質的に後縁（ＴＥ）まで翼弦方向に延び翼長方向に延びる単一の後縁冷却スロット（６６）で終端する。冷却孔（３０）のそれぞれは、下流方向に連続する冷却流との関係で、湾曲入口（７０）、一定領域一定幅の流れ断面（７４）を有する絞り部（１００）、および、後縁冷却スロット（６６）に通じる翼長方向漸拡部（１０２）を含む。軸方向隔壁（６８）は、冷却孔（３０）の間で翼弦方向に延び、翼長（Ｓ）に沿って冷却孔を半径方向に分離する。隔壁（６８）の尾部端（８６）は、湾曲ボートテール（８８）を含む。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１３】
正圧側壁（４２）および負圧側壁（４４）は、正圧側壁面（３９）および負圧側壁面（４０）のそれぞれを孔（３０）にさらに含んでもよく、正圧側壁面（３９）は、絞り部（１００）および漸拡部（１０２）の全体を通じて平面状であってもよい。幅（Ｗ）は、孔（３０）の絞り部（１００）および漸拡部（１０２）を通じて一定であってもよい。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００１６
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００１６】
【図１】翼長方向に延びる後縁冷却スロットで最高点に達する冷却孔を有するタービンベーンおよびロータブレード翼の例示的な実施形態の長手方向断面図である。
【図２】図１に図示するブレードの部分破断斜視図である。
【図３】図２に図示する後縁冷却スロットに通じる絞り部および拡散部を有する冷却孔内のプラグを有する冷却孔の正圧側の断面図である。
【図４】図３の４－４線に沿って取られた、後縁冷却スロットに通じる拡散部にプラグを有する冷却孔のうちの１つの概略断面図である。
【図５】図３に図示する冷却孔、プラグおよび後縁冷却スロットを上流側に見た斜視図である。
【図６】図３に図示する冷却孔および後縁冷却スロット内に延びる代替的なプラグの斜視

図である。
【図７】図６に図示する冷却孔の間の軸方向隔壁のボートテール尾部端の拡大斜視図である。
【図８】図３の８－８線に沿って取られた、絞り部の流れ断面の概略断面図である。
【図９】図３の９－９線に沿って取られた、漸拡部の流れ断面の概略断面図である。
【図１０】図６に図示する代替的なプラグを有する冷却孔のうちの１つの概略断面図である。
【誤訳訂正５】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２３
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２３】
図３は、後縁冷却孔３０をより詳しく図示している。各冷却孔３０は、下流方向に連続する冷却流との関係で、下流方向漸拡用のまたはベルマウス状の湾曲入口７０と、一定領域一定幅の流れ断面絞り部１００と、後縁冷却スロット６６に通じ、スロットに冷却空気または冷媒流５２を供給する翼長方向漸拡部１０２とを含む。図３から図６を参照すると、後縁冷却スロット６６は、漸拡部１０２の下流端６９に位置する吹出部（ブレイクアウト）５８で始まる。冷却孔３０の漸拡部１０２は、後縁ＴＥから前方または上流方向に離間した吹出リップ４９で正圧側壁４２の外面４３を破る後縁冷却スロット６６に通じる。
【誤訳訂正６】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２４】
冷却孔３０は、後縁ＴＥに向けて下流方向に延びる対応する軸方向隔壁６８によって、翼長Ｓに沿って半径方向に互いに分離される。湾曲入口７０は、ここでは下流方向漸拡用または、より具体的にはベルマウス入口として図示されている。入口７０は、隔壁６８の前方端部７２に、および前方端部の間に形成される。隔壁６８は、ベルマウス入口７０を形成する、直径７３を有する半円状前方端部７２を含む。冷却孔３０のそれぞれは、軸方向隔壁６８のうちの上部および下部隔壁２５、２６の対応する隣接対に沿って、翼長方向に離間した上部および下部孔面４６、４８を含む。孔３０の翼長方向の高さＨは、図３に図示するように、軸方向隔壁６８のうちの上部および下部隔壁２５、２６の上部および下部孔面４６、４８の間で規定される。絞り部１００、漸拡部１０２および後縁冷却スロット６６は、図３に図示するように、下流方向に延びる第１、第２および第３の長さＬ１、Ｌ２およびＬ３をそれぞれに有する。
【誤訳訂正７】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２７
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２７】
図９を参照すると、冷却孔３０は、断面孔領域ＡＨを有し、プラグ１１０は、断面プラグ領域ＡＰを有する。プラグ１１０と冷却孔３０の間の流れ断面７４は、孔領域ＡＨとプラグ領域ＡＰの間の差に等しい断面流れ領域ＡＦを有する。漸拡部１０２の流れ断面７４の断面流れ領域ＡＦは、下流方向に増加する。絞り部１００内およびプラグ１１０の上流の漸拡部１０２の任意の部分内の流れ断面７４の断面流れ領域ＡＦは、冷却孔３０の断面孔領域ＡＨである。
【誤訳訂正８】

【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２８
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２８】
絞り部１００内およびプラグ１１０の上流の漸拡部１０２の任意の部分内の流れ断面７４の実施形態は、図８および図９では、翼長方向または半径方向に離間した丸みを帯びたまたは半円状の内側および外側端部８２、８４の間の矩形部７５を有するトラック状の流れ断面７４を有するように図示されている。ここに図示するトラック状の流れ断面７４は、翼長方向に長く、４つの等しいコーナ半径Ｒを有し、０．１５～０．５０の範囲の好ましい幅高さ比Ｗ／Ｈを有する。
【誤訳訂正９】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３４
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３４】
一定幅Ｗを有し翼長方向に長い絞り部１００は、冷媒流５２の量を制御するようにサイズ決定されてエンジンサイクルに有益である。翼長方向に長い絞り部１００および漸拡部１０２は、吹出部５８で流れ範囲を拡張し、後縁冷却スロット６６に冷媒流５２を均等に分布させる。孔３０の漸拡部１０２の上流にある一定幅Ｗの絞り部１００は、漸拡部１０２に冷媒流５２を完全に付着させて維持するのに役立つ。トラック状の領域および流れ断面７４を有する一定幅Ｗの絞り部１００は、後縁冷却流５２を低減させる。
【誤訳訂正１０】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４２
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４２】
８　中心軸線
１０　高圧タービン段
１２　タービン翼
１４　基台
１６　軸方向挿入蟻継
１７　支持ロータディスク
１８　加圧空気
１９　高温燃焼ガス
２０　燃焼器
２２　高圧タービン（ＨＰＴ）
２４　低圧タービン（ＬＰＴ）
２５　上部隔壁
２６　下部隔壁
２８　タービンノズル
３０　後縁冷却孔
３２　高圧タービンブレード
３４　翼基部
３６　翼先端
３８　翼長方向の列
３９　正圧側壁面
４０　負圧側壁面

４２　正圧側壁
４３　外面
４４　負圧側壁
４６　上部孔面
４８　下部孔面
４９　吹出リップ
５２　加圧冷却空気または冷媒流
５４　内部冷却キャビティまたは回路
５６　薄い後縁部
５８　スロット吹出部
６０　スロット面
６２　丸み
６４　スロットコーナ
６６　後縁冷却スロット
６８　軸方向隔壁
６９　下流端
７０　湾曲入口
７２　前方端部
７３　直径
７４　流れ断面
７５　矩形部
８２　内側端部
８４　外側端部
８６　尾部端
８８　湾曲ボートテール
９０　後縁
９２　先端
９４　対
９６　丸みを帯びた断面
１００　流れ断面絞り部
１０２　漸拡部
１１０　プラグ
１１２　プラグ基部
１１４　プラグドーム
１１６　上流ドーム端
１１８　下流ドーム端
１２０　丸突出部
１２２　末端
１２４　矩形中央部
１３０　フロアまたはデッキ
１３２　最下部孔
１３４　最上部孔
１３６　上部デッキ側壁
１３８　下部デッキ側壁
ＡＦ　断面流れ領域
ＡＨ　断面孔領域
ＡＰ　断面プラグ領域
Ｃ　翼弦方向
Ｄ　下流方向
Ｈ　高さ

Ｌ１　第１の長さ
Ｌ２　第２の長さ
Ｌ３　第３の長さ
ＬＥ　翼前縁
ＬＰ　プラグ長
ＭＷ　最大幅
ＴＥ　翼後縁
Ｒ　下部コーナ半径
ＲＦ　丸み半径
Ｓ　翼長
Ｗ　幅